上手な畦塗りのポイント

畦塗りは少し土が湿っている状態で行うと作業効率が上ります。目安としては、雨が降った後、土を握ってみて塊になる状態で行います。

◎作業を行う上での注意点

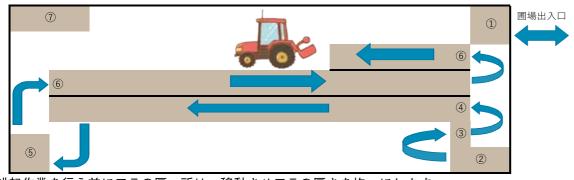
- ・作業速度を早くしない。
- ・耕起前に畦塗り作業を行う。



耕起作業のポイント

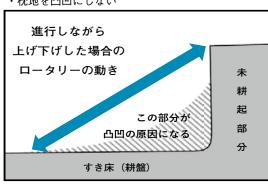
作土(耕深)を一定にする方法

○耕深15cmを目標に前年ワラを作土全体に拡散!!

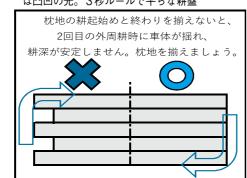


- ・耕起作業を行う前にワラの厚い所は、移動させワラの厚さを均一にします。
- ・①~⑦の順で耕起を行います。
- ・①②⑤⑦の角は隅まできっちり耕起(車体長さの1.5倍を耕起)します。
- ・③Uターンし、畦畔に前輪が着いたら、ロータリーを下げ耕起位置のマークをします。
- ・④さらにUターンし、③のマークに合わせ、ロータリーを下げてPTOを回し耕深が一定になったら (PTO回転から3秒後) 前進します。
- ・⑤畦畔に前輪が着いたら、停止し耕深が一定になったら(停止から3秒後)ロータリーを上げ⑤の角(隅)を耕し⑥から耕起を始めます。

・枕地を凸凹にしない



・進行しながらのロータリーの上げ下げ は凸凹の元。3秒ルールで平らな耕盤



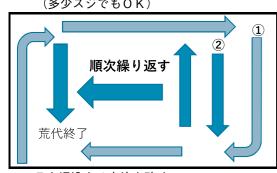
代掻作業のポイント

大きな圃場での、効率的な代掻き

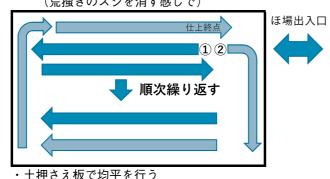
利点……何度も枕地でターンしなくてよい。(深くならない) ぬかるんだ圃場では、均平を取りやすい。

欠点……幅の狭い圃場では、作業効率が低下する。

① 荒代→土塊が1/2見える水量でタテ掻き (多少スジでも0K)



② 仕上掻き→通常のヨコ掻き (荒掻きのスジを消す感じで)



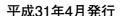
・ワラを埋没させ土塊を砕く

※外周は2回りでゆっくりUターンで枕地を深くしない。

No. 2



農業技術情報



発行: 秋田おばこ農業協同組合/秋田県農業共済組合仙北支所

監修:仙北地域振興局農林部農業振興普及課



苗七部作、育苗管理を優先し、本田作業を進めましょう。

初期生育を確保するには「健苗育成」!!

高品質、安定多収に向け、田植え後直ちに活着、分げつする「活力」のある苗づくりをしましょう。

育苗目標

пшпм			
苗の種類	稚 苗	中 苗	密播・密苗
育苗期間	20~25日	35~40日	14~21日
葉数	2.5葉	3.5葉	2.3葉
草 丈	10~13cm	13~15cm	10~15cm
必 要 箱 数 (10aあたり)	70株·····19箱 60株·····16箱 50株·····14株	70株·····22箱 60株·····19箱 50株·····16箱	70株8箱 60株7箱 50株6箱
播種量	乾 籾:144g/箱 催芽籾:172g/箱	乾 籾: 80g/箱 催芽籾: 96g/箱	乾 籾:300g/箱 催芽籾:360g/箱

苗姿の目安横笛 (2.5葉) 中苗 (3.5葉) 密搏・密菌 草丈11~12㎝ 草丈13~15㎝ 4.5㎝ 4.5㎝ 1.5㎝ 1.5㎝ 4.5㎝ 2.5㎝ 4.5㎝

ハウス内温度の目安

	稚		苗	中	苗	密 播	・密苗
第	1 葉 🖺	肖長	3.0~3.5cm	第 1 葉 鞘 長	2.5cm程度	第 1 葉 鞘 長	4.0~5.0cm
緑	化	期	昼:20~25℃ 夜:10~12℃	播種後20日間	昼:20~25℃ 夜:5℃以上	禄 化 期	昼:20~25℃ 夜:12℃以上
硬	化	期	昼:開放 夜:5℃以上	2.5 葉 期 以 降	昼:開放 夜:5℃以上	硬 化 期	昼:開放 夜:12℃以上

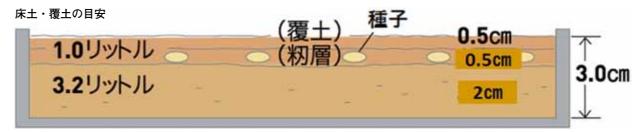
●密播・密苗栽培

密播・密苗とは、乾籾250~300g(催芽籾300~360g)を播くことで省力・低コスト化を目的とする技術です。栽培管理は慣行栽培とほぼ同じ方法で、規模や地域、品種にかかわらず導入でき、収量も慣行と同等です。

最大の特徴は育苗箱数が減ることです。今までと同じ面積を少ない育苗箱数で植えることができるため、育苗箱や、培土等の資材費、播種や苗運びにかかる時間や重労働に伴う身体的負担も軽減できます。

●床土・覆土の目安

床土厚は2.0cm程度を目安とし、覆土厚は種子を十分に覆うよう0.5cm程度を確保します。播種量を増やすと種子層が厚くなり覆土が溢れることがありますので、その際には床土を薄くして調整します。





農機具洪済

稼動前に

※点検と

《春期》加入連動実施中

- ●1台当り2,000万円まで加入OK!
- ●買い替え報告はお忘れなく。

ゆとりの農作業を…



●かん水は朝イチにたっぷり行いましょう

無加温出芽での被覆物(べた張り)除去後や育苗器から出芽苗をハウスに並べた後は、覆土の持ち上がりを落とす程度のかん水にします。また、露出した種籾があるようなら見えなくなる程度に覆土をします。

育苗期間はかん水温と床土温の差が少ない日の出から午前10時頃までにたっぷりとかけます。夕方のかん水は床温度を下げるだけでなく床土が加湿になるため控えますが、やむを得ず日中・夕方にかん水する場合は、ハウス内にて溜め置きした水をゆっくりとかけ、苗へ温度差によるストレスを与えないようにします。

●苗いもち防除

いもち病菌は「乾燥状態で冬を越した<mark>稲わら・もみ殻</mark>」に付着しています。そのいもち病菌が苗に移 ることでいもちの発生を助長します。種子消毒や育苗期防除と合わせて清潔な環境で作業を行います。

薬 品 名	防除時期	使 用 基 準	使用回数	備考	タフブロック併用
ベンレート水和剤	播種時~播種7日頃	500倍液 500ml/箱 1000倍液 1000ml/箱	1 回	かん注	×
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500ml/箱	1 🗓	かん注	0

※ベンレート水和剤の苗いもち防除時は使用回数1回までです。

●育苗期における主な苗立枯病

病名	ピシウム菌(別名:ムレ苗)				
症状	出芽後、地際水浸状に褐変、急激にしおれ枯死、カビ発生無。				
原因温度管理と水掛方法(急激な温度差、日中の水掛)。					
対策 タチガレエースM液剤の使用、日中の水掛はくみ置き水を付し温度差を解消。					

病名	フザリウム菌				
症状	発芽直後~、根・地際部褐変、黄化枯死。地際部白又は紅色の粉 状カビ。				
原因	過度の乾湿、昼間30℃以上夜間10℃以下の管理。				
対策	タチガレエースM液剤の使用、温度管理、肥料切れ注意。				

病名	リゾープス菌
症状	 種子層・床面に白いカビ。出芽・生育・根の発育不良。
原因	過度の乾湿、出芽期間32℃以上の管理、育苗資材の不衛生。
対策	育苗箱・出芽器の洗浄、施設清掃。播種時の水量と播種時ダコニール1000かダコレート水和剤の使用、出芽期間の温度。

病名	もみ枯細菌病			
症状	新葉基部と葉鞘部が白色~淡黄色→腐敗枯死、新葉は容易に抜ける。坪枯れ症状。			
原因	循環催芽で発生拡大、出芽温度が32℃以上、被覆資材の二度 掛け、育苗資材の不衛生。			
対策 育苗箱の消毒、出芽温度は32℃を超えないように管理し、被覆期間を過剰 長くしない。出芽後の再被覆は行わない。緑化期以降は25℃以下で管理する				

●プール育苗

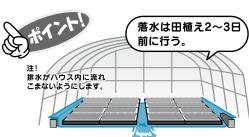
プール育苗を行うことにより水管理や温度管理作業が大幅に短縮されます。また、もみ枯細菌病や苗立枯細菌病の発生を抑制することができ健苗育成に役立ちます。

プールに水を入れる時期は、本葉が1.5葉期となった頃。 1 回目の水の深さは、育苗箱の床土の高さまでとし、苗が冠水しないように注意します。 2 回目以降は、箱下に水のなくなる部分が現れたら入水し水の深さは育苗箱の床土から1 cmまでとし、草丈の1/3 以上にはしないようにし、入水する間隔は、ハウス内の温度や気象状況などによって異なりますが、おおむね $5\sim7$ 日となります。



「注意点」

プール育苗では病害の発生を抑制することができますが、 一度病害が発生してしまうと、プール内すべての苗箱に感染 する恐れがあるため、初期の発生を見逃さないように注意し ます。



●温度管理

ハウス内の気温は慣行育苗より低く管理します。苗が伸びやすいため最低気温が5℃以上の場合はビニールの裾を開け換気を行います。プールに水を入れ始めたら原則として昼夜ともビニールの裾を解放状態にします。霜や低温(5℃以下)が予想される場合は、夜間にビニールの裾を閉め、箱上まで湛水します。この場合、保温マットなどの被覆は必要ありません。

「注意点」

中苗用育苗箱を使用する場合、箱の底に敷き紙を入れ、根が貫通しにくいようにします。また、プール内に育苗箱を並べる際には、ビニールに傷をつけないよう注意します。

プールの資材には「バンカスター」などの厚手のシートが最も適しています。

水稲育苗後に野菜などの施設栽培をおこなう場合は、育苗期に施用した農薬がハウス内に浸透しないようにします。

●移植前に追肥を行いましょう

苗をよく観察して葉数や葉色に応じて追肥を行います。種籾内や床土の養分が少なくなってくると葉 色が淡くなってきます。苗が栄養不足になる前に追肥を行います。

また、栄養不足で田植えをすると活着に時間がかかってしまうため、田植えの一週間前に弁当肥として追肥を行います。

育苗期追肥の目安(箱当たり窒素g)

葉齢			稚 苗	中 苗
1.5	葉	期	1 g	_
2.0	葉	期	_	1 g
3.0	葉	期	_	1 g

育苗追肥資材例

資 材 名	現物量	窒素成分	水 量
液 肥 2 号	10ml	1.0g	1,000ml
サイコー12号	8 g	1.0g	_

※サイコー12号は散布後にかん水を行います。